



令和6年11月19日

奥多摩町長 師 岡 伸 公 様

奥多摩町長期総合計画審議会

会長 原 島 金 廣

(公印省略)

第6期長期総合計画基本構想及び計画期間について（中間答申）

令和6年7月4日付奥企第72号で諮問のありました、第6期長期総合計画基本構想、基本計画及び計画期間のうち、基本構想及び計画期間について、奥多摩町長期総合計画審議会条例（令和6年3月1日条例第1号）第2条の規定により調査及び審議を行った結果、下記のとおり中間答申いたします。

記

1. 第6期長期総合計画基本構想に関すること

(1) まちの将来像

住民等との協創を重要なテーマに掲げ、住民ワークショップ等でいただいた様々な意見を踏まえ、目まぐるしく変化する時代でも変わることのないであろう、みなさんが大切にしている想いを込めて若手職員ワーキンググループが作成した『自然の中で わたしが 暮らし つながり 挑戦できる おくたま』をまちの将来像とされたい。

(2) 私たちが大事にする姿勢

まちの将来像を実現するため、以下5項目を大事にする姿勢とされたい。

○「豊かな自然」

全域が秩父多摩甲斐国立公園という恵まれた環境であることに向き合い、自然と共生し、観光資源を大切にできるまち

○「わたし」＝「一人ひとり」

年齢や性別、国籍などにとらわれず、一人ひとりの個性が光るまち

○「くらしやすさ」

今あるものに魅力と安らぎを感じ、暮らしてみたい、暮らし続けたいと思えるまち

○「町内外のつながり」

奥多摩ならではの顔が見えるつながりと奥多摩に関わる多様な人との絆を大切にできるまち

○「挑戦」と「学び」

歴史あるものから学びながら新しい物事に挑戦できるまち

(3) 未来をつくる3つのコンセプト

分野での整理ではなく横断的な視点から、以下3項目をコンセプトとされたい。

○「活性化」

未来をつくるためには、積極的に新たなものを創造すること、そして何より失敗を恐れず挑戦をすることが重要である。

○「持続化」

まちづくりには、過去や歴史からの連続性も必要で、今あるものを大事に守りながら新たな光をあてることで、継続することも重要である。

○「効率化」

限りある資源を活用し、新たなことに挑戦するためには、時には勇気をもってやめたり、縮小したりすることも重要で、整理・統合することで無駄をはぶくことにもつながる。

2. 第6期長期総合計画の計画期間に関すること

計画期間については、10年とされたい。ただし、目まぐるしく変化する情勢や住民ニーズの変化に対し、評価手法を含め、柔軟に対応されたい。